

農業共済新聞 千葉版

掲載号	9 月 4 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	研究員 黒田 幸浩
題名	落花生の収穫と乾燥のポイント	
備考	【写真説明】 莢内側の色からみた「ナカテユタカ」の収穫適期判断	

【本文】

落花生の収穫適期は茎や葉の状態から判断することが難しく、掘り遅れると食味及び外観品質の低下や落莢の増加、種子として利用する場合は発芽率の低下の原因となるので注意が必要です。収穫時期の予想は、開花し始めてからの日数で判断します。「ナカテユタカ」は開花後 80 日、「千葉半立」は開花後 95 日が収穫の目安です。「ナカテユタカ」は他の品種に比べ掘り遅れによる食味低下が激しいので、試し掘りをするより確実です。数株から莢をもぎ取って割り、半数以上の莢が「写真の+」以上に変色していたり、「写真の+++」のようになるものが 1 莢でもあれば収穫適期です。

収穫直後の子実中の水分は 50% 程度ですが、出荷までに 9% 以下まで乾燥させます。茎葉に莢をつけたままの状態を時間をかけてゆっくり乾燥させることが、ショ糖含量が高く、食味が良い落花生に仕上げるためのポイントです。まず掘り取り後、脱莢せずに 2~5 株ずつひとまとめにし、根を上にして 5~10 日間地干しをします。この後、株を円筒形に積み上げ寒風に当ててゆっくり乾燥させます。この状態を「ぼっち」と呼びます。「ぼっち」の状態です約 1 ヶ月程度乾燥させた株を脱莢機にかけた後に出荷します。

ゆで豆用の場合は、同一品種では煎り豆用より 5~10 日早く収穫します。「郷の香」は開花後 70 日、「ナカテユタカ」は開花後 75 日、「おおまさり」は開花後 85 日がゆで豆用の収穫適期です。収穫後は時間の経過にともないショ糖含量が低下していくので、できるだけ早く調製して出荷します。したがってゆで豆用では 1 日に収穫・調製できる量を考慮して播種計画を立てることが重要です。



写真 莢内側の色からみた「ナカテユタカ」の収穫適期判断